

(北野 PPT 第 4 章 該当問題)

平成29年度

試Ⅲ - 34

問題11 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

第二言語習得においてインプットは欠かせないものである。しかし、それだけでは十分でないとし、A アウトプット仮説が提唱され、さらに他者とのインターアクションが重要視されるようになった。教室環境の場合、B 教師と学習者のインターアクションが多くなりがちであるが、近年はC グループワークなど学習者間のインターアクションの機会を増やす試みが行われている。また、意味交渉が生じやすいD シミュレーションなどの活動を行うのも効果的であるとされている。さらに、教師と学習者の間でも、真の情報のやり取りを増やすことができる方法として、E ジャーナル・アプローチが注目されている。

問1 文章中の下線部A「アウトプット仮説」に関する記述として最も適当なものを、次の

1～4の中から一つ選べ。

- 1 会話の中で相手の発話の意味を確認することを通して習得が促進される。
- 2 会話の中で実際に声に出して発話することを通して習得が促進される。
- 3 会話の中で相手が理解できるように話すことを通して習得が促進される。
- 4 会話の中で理解できる発話に多く接することを通して習得が促進される。

問題13 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

日常の場面では、様々なコミュニケーション上の行き違いが生じる。その行き違いには、音韻レベル、統語レベル^A、意味レベルなど様々なものがある。文化的な相違に起因する行き違いは、高コンテクスト文化^Bと低コンテクスト文化という概念で説明されることがある。

また、期待されるコミュニケーション・スタイルも文化によって異なる。例えば、日本語の「褒めの応答」にも一定の傾向が見られ、状況や人間関係に応じて肯定応答、否定応答^C、回避等が選択されている。

このような文化差が原因で、非母語話者が母語話者の持つ言語規範や期待から逸脱（違反）することがある。その場合に、円滑なコミュニケーションを目指して逸脱に対する評価や調整^Dが行われることもある。その調整の一例として意味交渉^Eが挙げられる。

問5 文章中の下線部E「意味交渉」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

1 X：買い物行きたいんだけど・・・。

Y：雨だから、車で行こうか？

2 X：私、東京を出たことないんだよ。

Y：ふーん、ずっと東京に住んでいたということ？

3 X：このあたりでレストラン探しているんだけど。

Y：角を曲がったところにあるけど、おいしくないよ。

4 X：借りてた本、忘れたんだけど、今度返しても大丈夫？

Y：うん、もう読んだからいつでもいいよ。

問題 4 次の文章を読み、下の問い（問 1 ～ 5）に答えよ。

学習者の言語習得の過程では様々な誤用が生じる。誤用には、グローバルエラー^Aとローカルエラーがある。別の角度からは、言語間の誤りと言語内の誤り^Bに分けることもできる。また、学習者は使い慣れない形式や自信のない形式を使わない^Cことがあり、そのために誤用が現れないこともある。

学習者の誤用に対して、フィードバック^Dを行うことは教師の役割の一つである。その際には、どのような誤用であるかを見極めることが大切である。また、発話に対する「口頭訂正フィードバック」^Eと、書いたものに対する「ライティング・フィードバック」の特徴を理解し、学習者の実態やコース目標に応じ、適切なフィードバックを選択するよう心掛けたい。

問 1 文章中の下線部 A 「グローバルエラー」の例として最も適当なものを、次の 1 ～ 4 の中から一つ選べ。

	表出した発話（誤用）	発話意図（正用）
1	それはいい <u>だ</u> と思います。	それはいいと思います。
2	それは友達 <u>が</u> もらった本です。	それは友達にもらった本です。
3	先週、温泉に <u>行きます</u> 。	先週、温泉に行きました。
4	これを <u>見</u> てください。	これを見てください。

問2 文章中の下線部B「言語内の誤り」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 この映画は、全然面白いじゃないです。
- 2 分からないことがあるんですが、教えることができますか。
- 3 X：日本では、お見合いをレストランですることがあります。
Y：ああ、これは私の国でもありますよ。
- 4 X：この美術館は素晴らしいですね。
Y：ええ、私はぜひもう一度ここに来なければなりません。

問3 文章中の下線部Cのようなストラテジーを何と言うか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 省略
- 2 回避
- 3 葛藤
- 4 ちゅうちょ躊躇

問4 文章中の下線部D「フィードバック」に関して、学習者に言い直しを求めるフィードバックを何と言うか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 直接訂正
- 2 明確化要求
- 3 誘導
- 4 繰り返し

問題 9 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

第二言語習得と母語の関係については、様々な捉え方がされてきた。1950～60年代における構造主義言語学や行動主義心理学に基づく言語習得観のもとでは、母語と目標言語との差異は学習の困難点となると考えられていた。しかし、学習者の産出する発話や文の分析が行われると、学習者の犯す誤りに注目が集まるようになる。誤用分析研究により、母語と無関係の誤りも多くあることが分かった。また、母語にかかわらない自然習得順序仮説がクラッシュェン（S. D. Krashen）により提唱され、第二言語習得と母語の関わりは限定的なものと捉えられるようになった。

問 2 文章中の下線部Bを主張したものとして最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 根本的相違仮説
- 2 分離基底言語能力モデル
- 3 創造的構築仮説
- 4 対照分析仮説

問 3 文章中の下線部C「誤り」の種類に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 「言語間の誤り (interlingual error)」とは過剰般化で生じた誤りのことである。
- 2 「言語内の誤り (intralingual error)」とは母語干渉による誤りのことである。
- 3 「全体的な誤り (global error)」とは相手の理解に支障を来す誤りのことである。
- 4 「局所的な誤り (local error)」とは教師の指導に起因する誤りのことである。

問題11 次の文章を読み、下の問い（問1～5）に答えよ。

近年、第二言語習得研究の知見を踏まえた指導としてフォーカス・オン・フォーム^Aが注目されている。これはフォーカス・オン・フォームズ^Bと対照して論じられることが多い。フォーカス・オン・フォームを可能とする具体的な教室活動としてはディクトグロス^Cが挙げられる。

また、フォーカス・オン・フォームに関する研究では、教室活動だけでなくプロンプト^Dやリキャストなどのフィードバックの方法についても検討されている。リキャストについては、プライミング効果^Eがあると報告されている。

問1 文章中の下線部A「フォーカス・オン・フォーム」に関する記述として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 意味のある伝達活動に従事させながら、必要に応じて言語形式も意識させる。
- 2 オーディオリンガル・メソッドの流れをくんでおり、ドリル練習を重視している。
- 3 学習者の母語で形式の理解を確認しながら指導をするため、定着度が分かりやすい。
- 4 教師主導で類似の表現形式について学習者同士が話し合うメタトークを重視する。

問2 文章中の下線部B「フォーカス・オン・フォームズ」の例として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 理解可能で自然な目標言語を学習者にたくさん聞かせる。
- 2 学習者にクラスメートの前でストーリーを語らせる。
- 3 目標言語を使って理科や算数などの教科学習を行う。
- 4 学習者が問題集にある文法の空所補充問題を解く。

問4 文章中の下線部D「プロンプト」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

1 学習者：景色はとてもきれかったです。

教師：えっ、違うでしょ。「きれいでした」でしょ。

学習者：そうですか。景色はきれいでした。

2 学習者：景色はとてもきれかったです。

教師：へえ、そんなにきれいでしたか。良かったですね。

学習者：はい、本当に良かったです。

3 学習者：景色はとてもきれかったです。

教師：そうですか。とてもきれいでしたか。

学習者：はい、きれいでした。

4 学習者：景色はとてもきれかったです。

教師：「きれい」はナ形容詞ですよ。

学習者：あ、景色はとてもきれいでした。

問題 6 次の文章を読み、下の問い（問 1～5）に答えよ。

コミュニケーション能力を高めることを重視した授業では様々な指導が行われている。中級以上の会話の授業では、社会言語能力や談話能力を高める指導^Aが必要である。また、コミュニケーション・ストラテジー^Bの効果的な使用も意識させたほうがよい。さらに、書く活動においてもコミュニケーション能力の養成を意識した活動^Cが求められる。近年はプロフィシェンシー^Dの育成を目指した教育実践もある。

指導にあたっては、学習者の発話や作文において語用論的転移^Eによる誤りが起こる可能性があることを理解しておく必要がある。

問 5 文章中の下線部 E 「語用論的転移」の例として最も適当なものを、次の 1～4の中から一つ選べ。

- 1 先生に予定を伝えるメールの中で「今年就職ができないとすると、国へ帰るつもりです」と書く。
- 2 思いがけない贈り物をくれた人へのお礼状の中で「プレゼントをもらって驚愕しました」と書く。
- 3 目上の人に誘われたときに「その日は約束があるから行きません」と言う。
- 4 友達に気持ちを伝えるときに「はっきりと、honestlyに言うとね」と言う。